

## 最も幸せな日本人像は 30代、都会暮らし、専業主婦

高齢者ほど「不幸」 阪大教授ら概念数値化

男性よりも女性、高齢層よりも若年層のほうが幸せを感じているが、所得の高さと幸せは必ずしも比例しない。大阪大学社会経済学研究所が全国の六千人を対象に行ったアンケートで、日本人の考えるこんな「幸福感」が浮かび上がった。「幸せ」というあいまいな概念を経済学的、社会学的な観点から数値化した極めて珍しい研究結果。調査データをもとに「日本で最も幸せな人物像」も浮かび上がらせており、同研究所では「一部のデータは国民の幸福を追求する政策にも生かせるのでは」としている。さて、あなたは今、幸せですか？

調査は、同研究所の筒井義郎教授（経済学）らが昨年二月から、無作為に選んだ全国の二十 - 六十五歳までの六千人を対象に実施。訪問してアンケートを配布、回収する方法で約四千二百人（70・4%）から回答があった。

アンケートでは、幸福感について、「非常に幸福」を十点、「非常に不幸」を〇点として、「あなたは何点になると思うか」という「幸福度」をたずねた。この結果、五点が最も多く25%。続いて七点が20%、八点が18%、十点も5・5%あり、全体としては幸福と考えている人が多いことが分かった。一方で、四点以下は13%にとどまった。

この結果を約三十項目にわたって分析したところ、性別では、女性の「幸福度」の平均値が六・五一点に対し、男性は六・二七点で、女性の方がより幸せと考えている人が多かった。

年齢別では三十代（平均値六・六点）が最も高く、次に二十代（六・四）が続いたが、四十代以降は加齢とともに不幸になり、六十代では六・二点に落ち込んだ。この結果は、海外の大学が行った調査と比べると逆の現象。アメリカやイギリス、ドイツでは三十歳代が最低で加齢とともに幸福度が増しており、若者に甘く高齢者に厳しい日本社会の傾向を表したともいえる。

職業別では学生（六・九）□管理職（六・八）□専門技術職（六・七）□事務職（六・五） - などの順。主婦も高かったが、専業主婦（六・七）とパート主婦（六・一）で差が開いた。

学歴では、高学歴になるほど数値が上がっていたが、大学文系卒（六・九）に比べ、大学理系卒（六・八）はやや低く、短大卒とほぼ同じ。サンプル数は少なかったが、小中学校卒（五・七）と大学院修了（七・一）では一・四点の差が出た。一方で、所得（世帯全体）をめぐっては年収千五百万円までは所得が上がるにつれて幸福度も上昇したが、千七百万円以上になると逆に低下するという皮肉な結果も出た。

居住地域では、政令都市などの大規模都市になるほど上がり、特に近畿と関東が高かった。これは、都市部のほうが高所得者が多いことに加え、利便性なども背景にあるとみら

れる。ノルウェーでは都市部と田舎での幸福度は変わらないという報告もあるという。